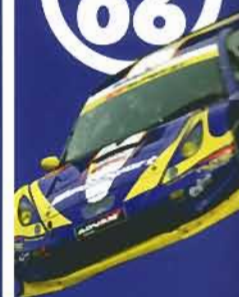


爆走坂東組日記

2006



おう、今年もいくつか来た台風が去っていったと思ったら、アツという間に涼しくなりやがったな。オレの心にも秋風が吹いてるぜ。せっかく上位を狙っていたレースが、またしても思いどおりにいかなかったからな。まあ、今回はそんな切ない話を聞いてくれや。

鈴鹿1000kmでタイトルの夢を打ち砕かれたウチのチームの目標が、残り3戦のどこかで優勝することだ。というのは、前回話したよな。その残りのレースが催されるのは、ツインリンクもてぎとオートポリス、そしてオレらにとっちゃホームグラウンドの富士スピードウェイだ。オレの考えでは、この中でセリカの特性を活かして「勝ち」を狙えるのは、オートポリスか富士じゃねえかなと思ってる。だから、その前のもてぎをどう戦うかってことも、色々考えてたんだ。

もてぎはストップ&ゴーレイアウトのコースだから、ターボエンジンのセリカにとっちゃあ、それほど得意なコースではないんだな。プレ

意なコースではないんだな。プレ

ーキングに関してはそんなに悪くないんだが、低速コーナーからの立ち上がりではターボラグがある分、N A勢に対しては不利なんだ。ま、ど

つちかっけやうと、ここは弱い。でもリンクスじゃないが、いつももてぎではある程度の結果が残ってるんだな。だから、今回はタイムは

それほど出さずに、結果としてはお立ち台に上りたいと思ってるんだ。ところがフタを開けたら、思惑ど

おりにいかなかった。もてぎ以降の救済なんかも計算に入れてたんだが、まず予選でタイムを出しすぎちゃ

った。もともとトップ3には入れないと分かってたから、それほどひ

ちやきにならなくても良かったのに、スーパーラップに出ちゃったんだな。しかも、今回速かったウィー

マックがトラブルでスーパーラップに出られなかったり、スーパーラップでトップになったフォードが予選タ

イム抹消になったおかげで、予選トップ6の平均タイムが想定より遅く

Vol.5

思惑どおりにいかなかった“勝つ”ための戦略

なっちゃった。その

平均タイムより1秒以上遅くないと、次のレースで救済が受けられないから、その時点でひとつ計算が違ってきたんだ。

タイヤ選択に関しても、今回はちよつとミスったな。金曜

日の走行で、ソフトタイヤでももつて

ことが分かったんで、今はそれを反省して

いるところ。低速コーナードライバ

ーでターボラグがあるだけじゃなく、高速コーナードライ

バにパワーを食われてタイムロスしてたんだな。その結果、セリカの良さを

活かす走りができなかった。予選だけじゃなく、決勝仕様のコンスタン

トラップタイムも思ったほど伸びな

かったんだ。だから、決勝レースではソフトタ

イヤでスタートする松田をショートステイ

ントにして、後半のシゲにはハードタイヤを履いてもらおうと思

っていたんだ。ところが、オープニングラップの

3コーナーで、松田が飛び出しちまったんだな。ウチはソフトタイ

アだったし、内圧の調整の関係もあって、フォーメーションラップを終え

た時点でもうタイヤが温まってたんだ。だけど、ウチより前方にいるマ

シンはまだ温まり切ってなくて、全体のペースが遅かった。だから、プ



スーパーラップを終えたシゲ（写真右端）、松田とともに他車の状況を見守る。

レ

ーキングポイントもウチよりも手

前。そこで松田がRX-7に接触し

てコースアウトし、2周遅れになっ

ちまったんだ。幸いその後も普通に

走ることはできたんで、データを取

るために最後まで走らせた。ここで

データ取りをしたことで、ダンパー

やマシンのセッティングアップに関しては

可

なりいい部分が見えた。これを残

る2戦にどううまく活かせるかだな。

セリカはもう売っていないクルマ

だから、みんなに姿を見せられるの

は今季限りかもしれない。でも、オ

レは歴代セリカを愛おしく思いつつ

レースをしてきたから、あと2回を

キチツとした形で終えたい。そんな

最後

の戦いを、みんな襟止して見て

いてくれや。

GT300 Race Report ROUND 7

救済狙いの作戦は失敗も次戦オートポリスはハンデ5kgのチャンス!

ランキング12位、ウエイト20kgで挑んだ第7戦ツインリンクもてぎ。1回目の予選を12番手で終えたウェッズスポーツレーシングチームwithバンドウ。しかし、トラブルやアクシデントのため上位2台の第2ドライバーが基準タイムをクリアできず、ウェッズスポーツは10番手に繰り上がりスーパーラップ進出が決定。最初のアタックとなったスーパーラップでは9番手タイムをマークするが、暫定ポールポジションのマシンが規定違反によりタイム抹消、決勝は8番グリッドからのスタートとなった。

翌日の決勝。なんとスタート直後の3コーナーで松田晃司がコースアウトを喫してしまう。コースには復帰するもののグラベル脱出に時間がかかり、2周遅れで周回を重ねることになった。その後は大きなトラブルもなく27周目にピットインし、松田から脇坂薫一にドライバー交替を行なう。トラブルやアクシデントによって脱落するマシンが増える中で、脇坂は徐々にポジションを回復し、結局、16位でのゴールとなった。第7戦を終えて、ランキングは順位をひとつ下り13位。また次戦オートポリスはハンデウエイトが5kgとなる。

GT300 Race Result ROUND 7

Rd.7 9月10日 晴れ/ドライ ツインリンクもてぎ
4.801379km×63周=302.48687km 参加41台・出走41台・完走39台

順位	総合順位	No.	ドライバー	マシン	タイヤ	周回数	ベストタイム	予選/タイム
1	15	11	田中哲也/青木孝行	JIM CENTER FERRARI DUNLOP	DL	58	1'56"875	2/1'54"590
2	16	13	野山正美/藤井誠樹	エンドレスアドバンCCI Z	YH	58	1'58"185	15/1'56"133
3	17	62	佐藤真介/黒澤治樹	WILLCOM ADVAN VEMAC408R	YH	58	1'56"551	1/1'54"569
4	18	7	山野哲也/井入宏之	南宮アスパラリンクRX7	YH	58	1'58"409	7/1'55"932
5	19	55	佐藤秀博/池田大祐	DHG ADVAN FORD GT	YH	58	1'56"772	
16	30	19	松田晃司/脇坂薫一	ウェッズスポーツセリカ	YH	56	1'59"076	8/1'57"571

・ベストラップ: No.62 WILLCOM ADVAN VEMAC408R 1'56"551 2/58 148.30km/h